

京都市地区小学校教科書選定委員会 答申

「地図」について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。
- 2 習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。
- 3 児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。
- 4 全図と部分図の関連及び基礎的・初歩的指導について配慮されていること。
- 5 資料が新しく適切に表現されているとともに必要に応じて選択、活用しやすいよう工夫されていること。
- 6 単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。
- 7 基本的人権の尊重及び道德性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道德教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。
- 8 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

調査研究の結果の概要

■東京書籍「新しい地図帳」

巻頭では、「まちを上からながめる」「真上から見ると地図になる」「市を見わたしてみる」という3ステップで、地図とは真上からの視点で全体や一定の範囲を眺望したものであることへの理解を促すとともに、世界の地図では、国名に欧文を表記するなど、外国語活動や外国語科に対応するよう工夫している。

また、各ページに掲載されている人物キャラクターの吹き出しでは、例えば「鹿児島から那覇市までと那覇市から台湾までのきょりをはかってみよう」「北海道と同じくらいの緯度にある国をあげてみよう」など、地図から情報を読み取ったり、地図を使って調べたりする活動が提示されており、児童の探究意欲を喚起する手立てとなっている。

資料地図の面では、歴史上のできごとと関連付けて当時の地図を示すなど、地図と共に日本の自然、産業、貿易、歴史、文化、災害などに関する資料が掲載されている。また、見開き3ページで示された「日本の自然災害」では、過去に発生した災害の場所や規模、被害状況に加え、南三陸町のハザードマップも示すことで、自然災害に備えて避難場所を確認することの重要性を示すなど、地理的視点とあわせて、様々な視点で日本の今を捉える学習や、実生活に即した活動を促すよう工夫されている。

我が国の国土については、見開きの日本列島の地図で、日本の領土、領海、排他的経済水域の範囲を示すとともに、東西南北端の各島については、写真で詳しく示している。また、「南西諸島から九州」のページに尖閣諸島、「中国地方」に竹島、日本列島全図に択捉島の写真を解説と共に掲載し、領土についての理解が深まるよう工夫されている。

全体的に色が濃く、トーンも暗いこと、また、地図上の情報量が多く、文字も大きいことから、文字と地図記号等とが重なったり、地名等がゆがんで表記されたりする箇所があるなど、読み取りにくく使用しづらい面がある。

■帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」

8ページにわたる冒頭の「地図って何だろう」「地図のやくそく」では、町の景色と地図の対比、方位の読み取り方、地図記号の解説、地図から実際の距離を求める方法などが丁寧に解説されており、地図がどのように実際の町を写し取っているのか、また、地図の使い方や情報の読み取り方などについて分かりやすく理解できるよう、よく工夫されている。

また、巻頭には「3年生から始まる外国語活動でも地図帳を使ってみよう」という表記と簡単な問いを設けるとともに、地図上の国名に欧文を表記し、諸国の挨拶も掲載するなど、外国語活動等に活用・対応できるよう、よく工夫されている。

各ページにおいては、「地図マスターへの道」が設定され、「中国地方で一番高い山は何メートルか」「庄内平野で米づくりがさかんな理由を地図帳や図書室で調べて説明しよう」など、地図情報を活用した探索、分析、調査等の活動が3段階の難易度で提示されており、児童の実態に応じた探究活動が展開しやすく優れている。

資料地図の面では、例えば平野・山地別の人口割合や国土の断面図と季節風の関係など、地図と日本の自然、災害、産業、工業・交通、貿易、歴史などを関連付けた資料が充実している。また、「日本の自然災害と防災」では、まず災害に関する資料を示し、次に防災への取組や

防災マップづくりの活動を提示するなど、資料と活動手順が丁寧に示されていたり、防災マップを活用して避難場所を適切に選択する活動が設定されたりするなど、地理的視点と日本の現状や社会的課題を関連付けた学習や実生活に即した多様な活動が展開しやすく、優れている。

我が国の国土については、見開きの日本列島の地図で、日本の領土、領海、領空、排他的経済水域の範囲について示すとともに、日本の東西南北端の島々と、日本固有の領土として北方領土、竹島、尖閣諸島が写真と解説を付して掲載され、領土についての理解が深まるよう工夫されている。

全体的に地図の色が淡いため文字の濃さが区別しやすく、また、地図上に示す地図記号等が精選され、文字と地図記号等の重なりや、地名等の文字の並びの揺れも低減されており、地図や文字が読み取りやすく、使用しやすい。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点		東京書籍	帝国書院
1	基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。	1	地図や写真，資料の充実	○	◎
		2	地図帳の使い方の提示	△	○
2	習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど，思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。	1	追究意欲の喚起につながる工夫	○	◎
		2	多様な学習活動の提示	○	○
3	児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう，探究意欲を高める工夫・配慮がなされ，さらに，学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。	1	主体的・対話的な活動を促す工夫	○	○
		2	多様な視点で活用できる工夫	○	◎
4	全図と部分図の関連及び基礎的・初歩的指導について配慮されていること。	1	地図を見る視点の提示	○	◎
		2	国土や領土への理解	○	○
5	資料が新しく適切に表現されているとともに必要に応じて選択，活用しやすいよう工夫されていること。	1	資料の新しさや詳しさ	○	○
		2	地図や資料の見やすさや分かりやすさ	△	○
6	単元構成の系統性・発展性に加え，カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連，また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。	1	他教科や教育課題等との関連	○	◎
		2	家庭・地域との連携	○	○
7	基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ，人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。	1	人権教育の推進	△	○
		2	道徳教育の推進	○	○
8	表記や表現について，文章や写真，図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え，ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ，見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており，造本についても装丁や編集が適切なものであること。また，再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1	文章や写真，図表等の適切さ，正確性，使いやすさの工夫	△	○
		2	ユニバーサルデザインの視点	○	○
		3	装丁や編集の適切さ，堅牢性の工夫	○	○
		4	用紙，インク等の環境面への配慮	○	○

【地図】観点別資料

【選定の観点1】

基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

発行者名	2 東書	4 6 帝国
<p>○織込み仕様となっている3ページ分の見開き画面で世界全図、日本列島全図、東北地方、日本の自然災害などの地図や資料が掲載されており、世界や日本、地方の広がりや様相を実感することができる。</p> <p>○歴史のできごとと関連付けて当時の地図を示すなど、地図とともに日本の自然、産業、貿易、歴史、文化、災害などに関する資料を掲載するページが設けられ、地理的視点とあわせて、様々な視点で日本の今を捉えることができるよう工夫されている。</p> <p>○地図記号や索引の使い方、縮尺、方位、地図が示す範囲や見方等地図帳の使い方が2ページにまとめられているが、見開きページとしてはやや情報量が多く、資料と資料の間の余白も狭いため、使いづらい。</p> <p>○漢字の読み仮名については、1ページにつき1文字のみに付され、全ての漢字に付されておらず、3年生からの活用に十分な配慮がなされていない。</p>	<p>○織込み仕様となっている3ページ分の見開き画面で世界全図、日本列島全図、東北地方などの地図や資料が掲載されており、世界や日本、地方の広がりや様相を実感することができる。</p> <p>○例えば平野・山地別の人口割合や国土の断面図と季節風の関係など、地図とともに示す日本の自然、災害、産業、工業・交通、貿易、歴史などに関する資料が充実しており、地理的視点と日本の現状や社会的課題を関連付けた学習が展開しやすく、優れている。</p> <p>○地図記号、陸の高さと地図の関係、土地利用の具体的な解説、具体の地図を示しての索引の使い方、縮尺、地図が示す範囲や見方等の地図帳の使い方が4ページにわたって丁寧にまとめられており、児童の理解を促しやすい。</p> <p>○全ての漢字に読み仮名が付されており、3年生からの活用にも配慮されている。</p>	

【選定の観点2】

習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。

発行者名	2 東書	4 6 帝国
<p>○各ページにある人物キャラクターの吹き出しで、「鹿兒島から那覇市までと那覇市から台湾までのきよりははかってみよう」「北海道と同じくらいの緯度にある国をあげてみよう」など、地図から情報を読み取ったり、調べたりする活動が、探究意欲を喚起する手立てとなっている。</p> <p>○「日本の47都道府県」のページでは、キャラクターが出した問いに該当する都道府県を考えるなど、児童が取り組みやすい活動が設定されており、地図を活用して思考力・判断力・表現力等を育成する指導が進めやすい。</p>	<p>○各ページの「地図マスターへの道」のコーナーでは、「中国地方で一番高い山は何メートルか」「庄内平野で米づくりがさかんな理由を地図帳や図書室で調べて説明しよう」など、地図情報を活用した探索、分析、調査等の活動が3段階の難易度で提示されており、児童の実態に応じた探究活動が展開しやすいようよく工夫されている。</p> <p>○「高原野菜づくりがさかんな地域を確認し、高地の産業や気候を調べる」など、キャラクターの問いかけに対して、巻末の複数の資料を関連付けながら調べる活動が設定されており、思考力・判断力・表現力を育成する指導が進めやすい。</p>	

【選定の観点3】

児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。

発行者名	
2 東書	46 帝国
<p>○「世界全図と地球儀」では、2名の児童が協力して地球儀上の距離や方位を調べる様子が掲載されており、児童が疑問を出し合ったり教え合ったりしながら新たな気付きを得るなど、対話的な学習を促す手立てとなっている。</p> <p>○見開き3ページで示された「日本の自然災害」では、過去に発生した災害の場所や規模、被害状況を示すとともに、南三陸町のハザードマップを示し、自然災害に備えて避難場所を確認することの重要性を示すなど、実生活に即した活動を促すよう工夫されている。</p>	<p>○「世界と地球儀」では、複数の児童が協力して地球儀上の距離や方位を調べる様子が掲載されており、児童が疑問を出し合ったり教え合ったりしながら新たな気付きを得るなど、対話的な学習を促す手立てとなっている。</p> <p>○「日本の自然災害と防災」では、見開き2ページでまず災害に関する資料を示した上で、続く2ページでは、防災への取組や防災マップづくりの活動を提示するなど、資料と活動手順が丁寧に示されている。また、災害時にいる場所によっては、防災マップを活用して、避難場所を適切に選択する必要があることに気付く活動が設定されるなど、実生活に即した多様な活動が示されており、よく工夫されている。</p>

【選定の観点4】

全図と部分図の関連及び基礎的・初歩的指導について配慮されていること。

発行者名	
2 東書	46 帝国
<p>○巻頭では、「まちを上からながめる」「真上から見ると地図になる」「市を見わたしてみる」という3ステップで、地図とは真上からの視点で全体や一定の範囲を眺望したものであることへの理解を促す工夫がなされている。</p> <p>○見開きの日本列島の地図で、日本の領土、領海、排他的経済水域の範囲を示すとともに、東西南北端の各島については、写真で詳しく示している。また、「南西諸島から九州」のページに尖閣諸島、「中国地方」に竹島、日本列島全図に択捉島の写真を解説と共に掲載し、我が国の領土についての理解が深まるよう工夫されている。</p>	<p>○巻頭では、「地図って何だろう」「地図のやくそく」が8ページにわたって掲載されており、町の景色と地図を対比させて、地図がどのように実際の町を写し取っているのかを実感的に理解しやすい。また、方位の読み取り方、地図記号の解説、地図から実際の距離を求める方法などが丁寧に解説されており、地図の使い方や情報の読み取り方を理解できるよう、よく工夫されている。</p> <p>○見開きの日本列島の地図で、日本の領土、領海、領空、排他的経済水域の範囲について示すとともに、日本の東西南北端の島々と、日本固有の領土として北方領土、竹島、尖閣諸島が写真と解説を付して掲載され、我が国の領土についての理解が深まるよう工夫されている。</p>

【選定の観点5】

資料が新しく適切に表現されているとともに必要に応じて選択，活用しやすいよう工夫されていること。

発行者名	
2 東書	46 帝国
<p>○世界の統計の面積・人口・人口密度には2015年版が使用されており，最新ではなく，航路も最新ではない部分が見られる。</p> <p>○地図上の情報量が多く，文字も大きいことから，文字と地図記号等とが重なったり，地名等がゆがんで表記されたりする箇所があるなど，使用しづらい。</p>	<p>○世界の統計資料については，2016年版を使用するなど，常に最新の内容に更新されている。</p> <p>○地図上に示す地図記号等が精選され，文字と地図記号等が重ならないよう配慮されている。また，地名等の文字の並びも揺れが少ないなど，使用しやすい工夫がなされている。</p>

【選定の観点6】

単元構成の系統性・発展性に加え，カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連，また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。

発行者名	
2 東書	46 帝国
<p>○国名に欧文を表記するなど，外国語活動や外国語科に対応している。</p> <p>○日本の歴史と世界とのかかわりのページでは，日本の歴史を学びながら世界の様子を知ることができるとともに，日本の領土・領域の変遷を示すなど，社会科等の学習との関連が配慮されている。</p> <p>○例えば日本の平均降水量，海流，雨温図を一つの地図で示すなど，地図と共に日本の自然，産業，貿易，歴史，文化，災害などに関する資料が掲載されている。</p> <p>○裏表紙に「保護者の皆様へ」として，保護者へのメッセージが掲載されている。</p>	<p>○冒頭に「3年生から始まる外国語活動でも地図帳を使ってみよう」という表記と共に，簡単な問いが設けられている。また，国名に欧文を表記し，諸国の挨拶も掲載するなど，外国語活動や外国語科に活用・対応できるよう，よく工夫している。</p> <p>○日本の歴史上の主な出来事を示す年表に掲載されている地名や建物等については，関連する地図ページを記載するなど，工夫している。</p> <p>○例えば日本列島の8月の気温分布図や日本の航空路など，地図と共に日本の自然，災害，産業，工業・交通，貿易，歴史などに関する資料が掲載されている。</p> <p>○裏表紙に「保護者の皆様へ」として，保護者へのメッセージが掲載されている。</p>

【選定の観点7】

基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

発行者名	
2 東書	46 帝国
<p>○世界各国の動物や料理などの写真や記述は見られるが、人々の生活の様子が分かる写真や記述が少なく、国際交流や多文化共生などの視点からの指導が進めにくい。</p> <p>○「日本の歴史と文化」では、都道府県を明治元年時点の「国名」で表記した地図を掲載するとともに、全国の祭りや名所・旧跡、世界文化遺産が掲載され、我が国や郷土の伝統と文化を尊重する学習につなげられるよう工夫されている。</p> <p>○「オリンピックとワールドカップ」の開催都市と開催年を記した地図が掲載されているが、「パラリンピック」の表記がされておらず、障害者スポーツへの配慮が見られない。</p>	<p>○「集まれ世界の子どもたち」というコーナーが多数あり、世界の子どもたちの生活や文化の様子が紹介されるとともに、姉妹都市に関する記載もあり、国際理解教育につながるよう工夫されている。</p> <p>○「日本の歴史と世界文化遺産」では、日本の歴史年表と共に都道府県を明治元年時点の「国名」で表記した地図や全国の世界文化遺産が掲載されており、我が国や郷土の伝統と文化を尊重する学習につなげられるよう工夫されている。</p> <p>○「オリンピック・パラリンピック」の開催都市と開催年を記した地図が掲載されている。</p>

【選定の観点8】

表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名	
2 東書	46 帝国
<p>○全体的に色が濃く、トーンも暗いため、文字や地図記号等が読み取りにくい。</p> <p>○文字や記号を大きくするとともに、親しみやすい丸ゴシック系の書体になっている。</p> <p>○説明文などで文の意味の切れ目で改行するなど、読みやすいよう工夫している。</p> <p>○インデックスを巧みにずらして、対象を探しやすいよう工夫している。</p>	<p>○全体的に地図の色が淡く、文字の濃さが区別しやすいため、地図も文字も読み取りやすい。</p> <p>○文字はユニバーサルデザインフォントを採用している。</p> <p>○タイトルの位置を原則左上に固定するなど、地図帳全体で統一感をもたせている。</p> <p>○テーマごとにインデックスの位置を変えるなど、調べ学習がしやすくしている。</p>